

□伊勢湾台風から 50 年の節目の取組み

愛知県防災局防災危機管理課長 熊田清文

昭和 34 年 9 月 26 日午後 6 時過ぎに和歌山県の潮岬の西に上陸した台風 15 号は、特に伊勢湾周辺地域に未曾有の大災害を引き起こし、後に「伊勢湾台風」と命名されました。

愛知県での被害は、高潮、暴風、大雨などにより、名古屋市南部や海部・知多地域を中心に死者・行方不明者の数は 3,260 人を数え、全国 32 都道府県での死者・行方不明者 5,098 人の 6 割以上を占めています。

また、全半壊や流失した建物は 123,500 戸以上にのぼりました。

【全国被害状況集計（平成20年度版消防白書より）】

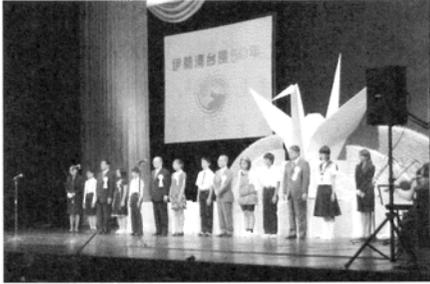
人的被害	死者（人）	4,697
	行方不明者（人）	401
	負傷者（人）	38,921
住家被害	全壊（流失）（棟）	40,838
	半壊（棟）	113,052
	床上浸水（棟）	157,858
	床下浸水（棟）	205,753

伊勢湾台風による被害は、明治以降の自然災害における死者・行方不明者数では 5 番目の多さで、地震や津波以外の災害では過去最悪であり、この災害が契機となって、我が国の防災対策の基となる「災害対策基

本法」が制定されることとなり、国・県・市町村などが一体となって、国民の生命、身体、財産を災害から守るためのハード・ソフト両面での様々な防災対策が進められてきました。

今年、この伊勢湾台風の被災から 50 年を迎えました。半世紀が経過し、被災体験者や遺族などの関係者が年を重ねられる一方で、伊勢湾台風を知らない世代が時代の主役となりつつあります。このような中で、被災から学んだ経験や教訓を風化させることなく、風水害の恐ろしさや備えの大切さなどを後世に伝えることは、安心・安全で災害に強い地域をつくるうえでとても重要なことであると私たちは考えています。

そこで、平成 19 年 9 月の東海三県一市知事市長会議（構成：岐阜県、愛知県、三重県及び名古屋市）において、愛知県知事から、「平成 21 年に伊勢湾台風から 50 年を迎えることから、甚大な被害を受けた三県一市が共同で何か事業を実施できないか。」という趣旨の提案をさせていただき、三県一市で今後につながるような未来志向的な共同事業を実施し、災害に強い安全な地域づくりに取り組むことが合意されました。



【“伊勢湾台風50年のつどい”
プログラム その1】

第1部 伊勢湾台風50年未来宣言

- 開会
- 献奏曲／
モーツァルト 交響曲41番「ジュビター」第2楽章
- 当時の小学生の作文朗読
- 黙祷
- “いのちの折り鶴”モニュメントの紹介
- 献花
- あいさつ（愛知県知事）
- 伊勢湾台風50年未来宣言
- 閉会

湾台風の記録的な高潮の高さと同じ 3.45mの大型折り鶴と、亡くなった方への想いを込めて三県の小学生が折った 5,000 羽の折り鶴を舞台中央に配置したものです。

献花に続き、三県一市を代表して開催地である愛知県の神田知事が挨拶として、開催にあたっての思いや、このイベントが災害に強い地域づくりの第一歩となることへの願いなどを述べた後、このイベントのメインとなる「伊勢湾台風 50 年未来宣言」へと移っていきました。三県一市の児童生徒からの防災の問いかけに対し、各知事・市長が伊勢湾台風の思い出や災害に対する取組等を述べ、それを受けた児童生徒が未来への思いや期待を未来宣言として読み上げ、

その宣言書を児童生徒と知事・市長が一緒に、未来に向かって羽根を広げる「折り鶴」に託し、第1部の幕は閉じられました。

第2部は、竹下景子さん(女優)の語りと映像で昭和34年の世相を振り返るプロローグから始まり、当時の社会整備の状況や防災体制、一般の防災意識、近づく伊勢湾台風への初動警戒態勢などについて、島川甲子三さん(気象解説者)、片田敏孝さん(群馬大学大学院教授)、神山征二郎さん(映画監督)といった出演者が語り合いました。

そして、迎える運命の9月26日。台風の襲来です。その時何が起こったのか。実際の体験談をもとに、舞台上に台風直撃の一夜が再現されました。暗闇の中、水はあつという間に家になだれ込み、畳がプカプカと浮き出すと、水の高さはあつという間に天井近くまで迫ってきました。屋根の上に上がってみて初めて、堤防が切れたことを理解し、あと何時間かかるのか分からない夜明けをまつこととなります。

台風一過。夜が明け、空だけは抜けるように青く澄んでいます。台風の爪跡として、高潮が引き起こした未曾有の被害の実態を映像や音楽で共有した後、秋川雅史さん(テノール歌手)が「千の風になって」を独唱し、会場の皆さんがそれぞれに思いをはせました。

50年前の悲しみを明日の悲しみとしないために、今日、考えなければならないことを考え、今、これからできることをしていかなければならないという思いを込め、会場が一体となり、未来へ向かって「翼をください」を合唱し、エンディングを迎えました。ここで、青空に折り鶴が飛んでいくイメージ映

像が流れ、第2部も終了となりました。

最近においても、平成12年の東海豪雨や昨年の8月末豪雨など台風や集中豪雨による風水害は、本県に大きな被害をもたらしています。また、地球温暖化が進む中、台風の大規模化や集中豪雨の頻発の可能性などについても心配されています。風水害のほかにも、この地域では、東海地震や東南海地震など地震災害の発生も危惧されています。

伊勢湾台風50年を機に、3県1市での連携をより密に災害に強い安全な地域づくりに取り組んでまいりたいと思います。

【“伊勢湾台風50年のつどい”
プログラム その2】

第2部 伊勢湾台風50年

～いのちへの祈り、未来への出発～

- プロローグ
- 襲来
- つめあと
- 未来へ
- エンディング

《出演者（敬省略）》

- ・竹下景子（女優）
- ・秋川雅史（テノール歌手）
- ・いとうまい子（女優）
- ・片田敏孝（群馬大学大学院教授）
- ・神山征二郎（映画監督）
- ・島川甲子三（気象解説者）
- ・中部フィルハーモニー交響楽団（オーケストラ）
- ・伊勢湾台風50年こども合唱団（特別編成コーラス隊）
- ・堀 俊輔（指揮）

《司会（敬称略）》

- ・内多勝康（NHK名古屋放送局アナウンサー）